

戦後80年平和宣言

どれだけ歳月を積み重ねようとも、決して忘れてはならない、あの悲惨な沖縄戦。

あれから80年が経ちました。

この美しい島は、^{げきれつ}激烈な戦火に襲われ、鉄の暴風は豊かな自然と風景を一変させ、貴重な文化遺産、そして、20万人余^よのかけがえのない命を奪い去りました。

この地には、戦火で散った無数の命が眠り、永遠^{とわ}の記憶が刻まれています。

「もう一度両親や兄弟の顔を見たい」と思いながら無念の想いで亡くなった命。

「生きたい」と将来を夢みながらも、生^{せい}への希求を胸に絶たれた命。

「名付けられること」もないまま、消えていった幼い命。

まさに、「ありったけの地獄を一つに集めた」ともいうべき状況となったのです。

私たち沖縄県民の心に深く刻みこまれた悲しみは、いまなお、癒^いえることはありません。

このあまりにも凄惨^{せいさん}な沖縄戦の実相と教訓は、戦争体験者が心の傷を抱えながら、後世に伝えようと残した証言と、沖縄戦研究者のたゆまない努力によって、今日^{こんにち}まで受け継がれてきました。

これこそが、私たち沖縄県民の平和を希求するところの原点となっています。

この地で繰り広げられた、住民を巻き込んだ沖縄戦の実相と教訓を、県民一丸となった不断の努力によって、世代を超えて守り伝え続けていくことは、いまを生きる私たちの使命ではないでしょうか。

沖縄の歴史^{たど}を辿ると、琉球処分、沖縄戦、米国統治下といった苦難

の道を歩んできており、本土復帰から53年を経た今日でも、^{こんにち}広大な米軍基地が集中し、米軍人等による事件・事故、米軍基地から派生する環境問題、そして、辺野古新基地建設問題など、過重な基地負担が続いています。

世界に目を向けると、現在の世界各地の戦争・紛争は、第二次世界大戦後最も多いとされており、また、核保有国による核兵器使用の可能性を示す動きもあるなど、安全保障環境はより一層複雑さを増しています。

苦難の歴史を歩んできた沖縄は、「命^{ぬち}どう宝」をなによりも重んじ、争いのない平和な世界を切に願っています。

私は、この小さな沖縄から、不条理な現状を打破するため、そして世界の恒久平和のため、何ができるのか、真剣に考え、国際社会と協調しながら、たとえ、微力でも行動していきたいと考えています。

私は、戦後80年の大きな節目を迎えた今、戦後90年、100年を見据えた長期的な視点に立ち、世界の恒久平和に向け、沖縄が果たすべき役割を、いまここに掲げ、世界に向け発信します。

一つ目に、「国際平和研究機構の創設」に向けた取組を進めます。沖縄戦の歴史的事実^{事実}に資する研究や国際平和の構築に資する研究の推進に向け、研究体制を整備してまいります。

二つ目に、「沖縄の戦争遺跡群の保存・活用」に向けた取組を強力に進めます。沖縄戦の記憶を継承するため、物言わぬ語り部である戦争遺跡群を保存し、悲惨な沖縄戦を教訓とする遺産として整備し、将来的に世界遺産登録を目指してまいります。

三つ目に、「核軍縮及び核兵器廃絶」に向けた取組を進めます。広島・長崎と連携し、核軍縮及び核兵器廃絶を国際社会に働きかけることを目的とした「グローバル・アライアンス」へ参加し、人類を破滅に導く全ての核兵器の廃絶を推進してまいります。

この戦後80年是一个の通過点です。私は、たとえすぐに変化はなくても、この沖縄から平和を発信し続け、行動をすることが、世界平和に繋がるものと信じているのです。

いまこそ、先人達から脈々と受け継いできた「万国津梁」の精神により、国際社会とともに恒久平和の実現に貢献する役割を果たしてまいります。

わった一^{うちなー}沖縄^{うふいくさ}ぬ大戦^{そー}から生じたる^{ましがた}実相^{ゆしぐとう}とう教訓^{いくさじぐく}や、戦争^{あたが}地獄^{かたがた}体験^{いーあらわし}み
そー^{かじかじ}ちやる^{しらびちわみ}方々^{たふいだみ}ぬ証言^{すーくदैてい}とう数々^うぬ研究^ちに蓄積^うぬうかじ^ちに実証^うさっ
てい^ち受き継^うがとーやびーん。

くぬ^{うちなーんちゆ}くとう^{みるくゆー}がる、わった一^{うちなーんちゆ}沖縄^{みるくゆー}県民^{みるくゆー}ぬ平和^{みるくゆー}希^{みるくゆー}求^{みるくゆー}さん^{みるくゆー}でい^{みるくゆー}する
肝心^{ちむぐくる}ぬ^{むとう}原点^{むとう}なとーい^{むとう}びーん。

沖縄^{うふいくさ}戦^{ましがた}ぬ^{ゆしぐとう}実相^{かがな}とう教訓^{いくゆー}に就^{くいー}てい、世代^{まむ}ん超^{ちぢ}てい、守^{まむ}い^{ちぢ}続^{まむ}きてい^{ちぢ}いいち
ゆる^{なま}くとう^{なま}や、今^{すくぶん}生^{すくぶん}ち^{あとう}ち^{いくゆー}よーる、わった一^{あとう}使^{いくゆー}命^{いくゆー}やてい、後^{あとう}ぬ^{いくゆー}世代^{いくゆー}まで
い^{ちな}ん^{うちなー}繋^{ちむぐくる}じ^{ちむぐくる}い^{ちむぐくる}ち^{ちむぐくる}ゆる「^{うちなー}沖縄^{ちむぐくる}ぬ^{ちむぐくる}肝心^{ちむぐくる}」や^{ちむぐくる}い^{ちむぐくる}びーん。

先人^う達^{やぐわんす}から^う受^うき^う継^うじ^うち^うやる^う「^う万国^う津^う梁^う」ぬ^う精^う神^うむ^うっ^うち^う、世^う界^うぬ^う恒^う久^う
平^{みるくゆー}和^{みるくゆー}ぬ^{みるくゆー}実^{みるくゆー}現^{みるくゆー}ん^{みるくゆー}か^{みるくゆー}い^{みるくゆー}貢^{みるくゆー}献^{みるくゆー}ぬ^{みるくゆー}な^{みるくゆー}い^{みるくゆー}る^{みるくゆー}役^{みるくゆー}割^{みるくゆー}ん^{みるくゆー}、く^{みるくゆー}ぬ^{みるくゆー}後^{みるくゆー}ん^{みるくゆー}真^{みるくゆー}摯^{みるくゆー}さ^{みるくゆー}ー^{みるくゆー}に^{みるくゆー}果^{みるくゆー}ち^{みるくゆー}い^{みるくゆー}
ち^{みるくゆー}や^{みるくゆー}びーん。

The reality and lessons of the Battle of Okinawa have been preserved through the stories of war survivors and validated by numerous studies.

Here lie the roots of the people of Okinawa and our enduring desire for peace.

It is our mission, as those living in the present, to preserve and pass on the reality and lessons as the “Spirit of Okinawa” to future generations.

In the spirit inherited from our predecessors as “Bankoku Shinryo”, to serve as bridge between nations, we will commit to fulfil our role in contributing toward the realization of world everlasting peace.

本日、慰霊の日に当たり、犠牲になられた全ての御霊^{みたま}に心から哀悼の意を表するとともに、恒久平和に貢献する沖縄を目指して、一步一步着実に前進していくことを決意し、ここに宣言します。

令和7年（2025年）6月23日

沖縄県知事 玉城 デニー

<しまくとうば・英語翻訳 エッセンス>

沖縄戦の実相と教訓は、戦争体験者の証言と数々の研究の蓄積により実証され、受け継がれている。

これこそが、私たち沖縄県民の平和を希求するこころの原点となっている。

沖縄戦の実相と教訓を、世代を超えて守り続けていくことは、今を生きる、私たちの使命であり、後の世代につなげていく「沖縄のこころ」である。

先人達から受け継いできた「万国津梁」の精神をもって、世界の恒久平和の実現に貢献する役割をこれからも真摯に果たしていく。